



院長挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年中、当センターに賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

大阪はびきの医療センターは新病院開院から2年目を迎えました。

当センターは昨年度、従来からの呼吸器・アレルギーの専門領域の充実を目指すとともに、患者さんが当センターで完結した治療を受けられるよう、診療科の増設、がん診療における診断から治療まで完結できる体制整備、救急医の充実などに尽力して参りました。昨年度より開始した手術支援ロボット（ダヴィンチ）を用いた手術は、今年度すでに70例を超えており、呼吸器外科・産婦人科・泌尿器科の領域において多くの患者さんに実施しています。また、整形外科の分野でもMako（メイコー）システムという手術支援ロボットを導入し、ダヴィンチ同様、より患者さんに優しい低侵襲手術を実施しています。



院長 山口 誓司

今年はいよいよ一層、質の高い医療の提供に加え、様々な併存疾患に対する医療の提供、今後も増加が見込まれる救急搬送への積極的な応需に尽力して参ります。

南河内地域における「地域に信頼され、地域になくってはならない病院」として総合的な医療の拠点病院を引き続き目指してまいりますので、本年も皆さまからのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

はびきのニュース①

登録医情報コーナーのご紹介

患者総合支援センター面談室の横に、登録医情報コーナーを設置いたしました！
当センターにご登録いただいている医療機関のリーフレットを作成し、置いています。
かかりつけ医を探すなど、患者さんが手に取ってご覧いただけるようにしています。
当センターにお越しの際は、ぜひ一度お立ち寄りください。



近隣市町村別に探せて便利です！

はびきのニュース②

マイナンバーカードの健康保険証利用開始のお知らせ

【マイナンバーカードの健康保険証利用とは】

マイナンバーカードを医療機関・薬局で健康保険証として利用することができます。利用の際は顔認証付きカードリーダーで受付を行います。顔認証付きカードリーダーを利用することで、これまでよりも正確な本人確認や過去の医療情報の提供に関する同意取得等を行うことができ、より良い医療を受けることができます。

【マイナンバーカードの健康保険証利用には以下3ステップが必要です】

- STEP1. マイナンバーカードを申請・作成する
- STEP2. マイナンバーカードの健康保険証利用を申請・登録する
- STEP3. 医療機関・薬局でマイナンバーカードを用いて受付をする

詳しくは厚生労働省HPをご確認ください



【マイナンバーカードの健康保険証利用のメリット（抜粋）】

- ・データに基づくより良い医療が受けられる
薬剤情報等の提供に同意をすると、おくすり手帳を見せなくても過去に処方されたお薬や特定検診などの情報を初診でも医師・薬剤師にスムーズに共有できます。
- ・手続きなしで高額療養費の限度額を超える支払いが免除される
マイナンバーカードで資格確認をおこなうため、紙の認定証の持参なし＆手続きなしで高額療養費の限度額を超える支払いが免除になります。

参考：厚生労働省ホームページ「マイナンバーカードの健康保険証利用について」

はびきのニュース③

Free Wi-Fiの使用時間延長について

新病院開院にあわせて、患者さん及び来訪者に快適な病院環境を提供するため、公衆無線Wi-Fiを整備しておりましたが、この度、ご意見箱に寄せられたご意見にお応えすべく、よりWi-Fiの環境を強化し、一度の接続で使用できる時間が増えました。

当センターの院内Free Wi-Fiは、無線Wi-Fiに対応した端末（スマートフォン・タブレット・パソコン等）をお持ちの方はご利用いただけます。

ご利用の際は、事前に必ず利用規約を確認し同意いただいたうえで、「マナーモード」に切り替え「操作音を消して」、他の方のご迷惑にならないよう、マナーを守ってご利用ください。

※利用規約、接続に必要なSSID及びパスワードは院内に掲示しております。

※Free Wi-Fiサービス接続ガイドは右のQRコードよりご確認ください。



Wi-Fi提供エリア

- 外 来 : エントランスホール、診療科待合、他
- 病 棟 : デイルーム、各個室
- 利用時間 : 6時～21時半



ホームページ



はびきの診療科コラム ①

ブレスト・アウェアネス (Breast Awareness) ～乳房を意識する生活習慣～

乳癌は、日本人女性が罹患する悪性腫瘍で一番多く、日本人女性の9人に1人が生涯で罹患するといわれています。40歳代から60歳代の比較的若い世代に多いという特徴があります。乳癌を早期発見するため、検診から次の検診までの間に「ブレスト・アウェアネス」を実践することが推奨されています。

「ブレスト・アウェアネス」とは、自身の乳房の状態を意識する生活習慣のことで、「ブレスト・アウェアネス」を身につけることで、乳房と乳癌に対する関心が高まることが期待されています。

ブレスト・アウェアネスの4つのポイント

①自身の乳房の状態を知る	②乳房の変化に気をつける	③変化に気がいたらすぐ医師に相談	④40歳になったら2年に1回の乳癌検診
着替えや入浴、シャワーなどの際に乳房を見て、触って、感じるという自身の乳房をチェックし、自覚することです。	乳房のしこり、乳頭からの分泌物、乳頭・乳輪のびらん、乳房の皮膚の凹みや引きつれ、など乳房の変化に注意して、いつもと変わりがなければ意識しましょう。	乳房の変化に気が付いたら次の乳癌検診を待つことなく医療機関を受診しましょう。大丈夫だろうと自己判断することなく専門医の診察を受けましょう。	乳癌検診の目的は乳癌でなくなる女性を減らすことです。日本では40歳以上の女性に対してマンモグラフィーを使用した乳癌検診が推奨されています。

ブレスト・アウェアネスを実践し、何か変化があれば当センター乳癌外科を受診してください。

参考：公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計2023」

○乳がん検診の適切な情報提供に関する研究（厚生労働省研究班）

「ブレスト・アウェアネス（乳房を意識する生活習慣）のすすめ」→



乳癌外科 主任部長 安積 達也

はびきのトピックス ①

マンモグラフィー・トモシンセシスが単独で保険収載されています



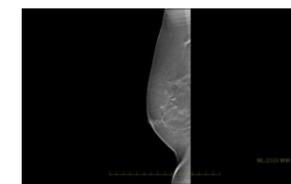
↑MAMMOMAT Revelation

令和6年6月より、マンモグラフィー・トモシンセシスが単独で保険収載されています。（トモシンセシスは乳癌外科からの診療分の撮影のみ現状可能です。乳がん検診には使用できません。）

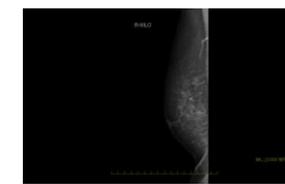
この技術は、従来の2次元マンモグラフィーに比べ、乳腺密度の高い方や微小な病変の検出率を向上させる点で注目されています。これにより、患者さんにとってはより早期発見・早期治療が期待でき、安心して検査を受けていただけます。

当センターの装置は振り角度が大きく、分解能に優れていて、石灰化の分布の評価がしやすい画像を撮像できます。腫瘍と乳腺の分離も可能となり、診断精度の向上が見込まれ、より適切な治療計画が可能となります。

今後も最新技術を取り入れ、質の高い医療提供に努めて参ります。



↑トモシンセシスで撮影した乳房



↑通常のマンモグラフィーで撮影した乳房

放射線科

はびきのトピックス②

悪性高熱症について

手術前の麻酔の説明で、「血のつながった方で全身麻酔で大変なことになった、なんてことはないですか？」などと質問されて不思議に思われたことはありませんか？

「悪性高熱症」とは、約千人に1人の割合で遺伝的に筋肉の細胞内の代謝異常を持っている悪性高熱症の素因者が、全身麻酔を受けたときに、吸入麻酔薬や筋弛緩薬などの使用をきっかけに筋肉の異常な収縮が起こり異常な高熱になるという病気です。約60年前に初めてこの病気が報告されたころは発症するとほぼ全員が死に至る恐ろしい病気とされていました。約40年前にダントロレンという特効薬が発売されてからは発症しても9割は助かるようになりました。現在では、全身麻酔6～10万件に1件の発症頻度です。

15分に0.5度の勢いで体温が上昇し、約40度に至りその後筋肉が崩壊していくといわれていますが、60年前に比べるといろいろなモニター類が開発され、体温上昇よりも早い段階で不整脈や血圧の変動、呼気の炭酸ガス濃度の異常な上昇といった初期症状に気づき、きっかけとなった麻酔薬の投与を中止し、呼吸回路を交換し、特効薬のダントロレンを投与すればまず救命できるといわれています。麻酔科医のいる手術室ならば、救急カートにお守りのようにダントロレンを備えています。

使用する麻酔薬の種類が悪性高熱症を誘発しないものにかわってきているため発症頻度はさらに減ってきているものの、麻酔薬以外に過度の緊張などをきっかけに発症した例なども報告されているので、油断せず、早期に異常に気づき、適切な治療につなげるよう努めていきたいものです。



麻酔科 副部長 播磨 恵

はびきの診療科コラム ②

肺非結核性抗酸菌症って？

聞きなれない病気ではないでしょうか？病名に結核と入っていますが似たような病気？

有名な肺結核は徐々に患者数が減っていますが、この病気は世間での認知度が非常に低いものの、この10年程度で患者数の増加（10万人当たり30人弱と見積もられています）が問題となっている慢性感染症です。

肺結核は人から人へ空気感染するいわゆる伝染病ですが、この病気は身の回りの土や水といった環境から感染することがわかっています。具体的に感染を防御するための行動はなかなか難しいため、病気を早く発見することに努力することが現実的であります。

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザなどの急性感染症は突然の高熱など激しい症状がでることが多く、自分が病気にかかっていることがわかりやすいですね。一方この病気の初期症状は何となく咳、痰が持続する、微熱が続くなど軽微な症状が特徴です。

肺結核も同様の症状であり、診断のためにはまずは胸部X線が重要となります。しかしながら初期の段階では胸部X線での診断が困難なケースが多く、胸部CT検査が病気を疑うきっかけとなるのも特徴です。

咳や痰などの症状が2週間を超えて続く場合はこれら抗酸菌感染症（肺結核・肺非結核性抗酸菌症）である可能性もありますので、呼吸器疾患に詳しい医療機関による精密検査をお考えください。



感染症内科 主任部長 永井 崇之

令和7年1月 第265号

編集・発行 大阪はびきの医療センター

ホームページ

